

## まなびの輪 ～大洗町における多文化共生～

分野：教育・研究、ボランティア、地域交流、課外活動、国際交流

代表者：人文学部人文コミュニケーション学科 3年 小栗 和花

### 連携先

大洗町役場 まちづくり推進課

大洗町立大洗小学校

大洗町立大洗第一中学校

科)

齊藤 朱里 (人文社会科学部現代社会学科)

### 顧問教員

横溝 環 (人文社会科学部・准教授)

### 参加者

森井 美桜 (人文学部人文コミュニケーション学科)

石川 遥 (人文学部人文コミュニケーション学科)

小栗 和花 (人文学部人文コミュニケーション学科)

後藤 睦貴 (人文学部人文コミュニケーション学科)

斎藤 航ノ介 (人文学部人文コミュニケーション学科)

沢 栞里 (人文学部人文コミュニケーション学科)

高嶺 咲 (人文学部人文コミュニケーション学科)

飛田 宗一朗 (人文学部人文コミュニケーション学科)

吉田 風音 (人文学部人文コミュニケーション学科)

安蒜 ひなた (教育学部特別支援コース)

越中 未穂 (人文社会科学部現代社会学科)

葛原 美希 (人文社会科学部現代社会学

### プロジェクトの概要

本プロジェクトは、大洗町役場・大洗小学校・第一中学校・ボランティアの方々と連携し、大洗町在住外国人の日本語コミュニケーション能力の向上および多文化共生のまちづくりの推進を目的としている。今年度は、これまでに引き続き、①大洗町在住外国人が日本語を学習できる場を設けること、②外国人同士・外国人と日本人の関係構築のきっかけとなる場を設けること、③外国にルーツをもつ子どもたちの学習をサポートすること、の3点を目標とした。加えて、④スピーチコンテストのサポートをすることで外国人児童・生徒の学習意欲向上を促し、日本人の内なる国際化に対する意識及び関心を高めることを新たな目標とした。活動内容は、大洗町在住外国人が日本語を学習できる「日本語教室」の開催、外国にルーツをもつ子どもの学習をサポートする「取り出し授業」への参加、誰でも気軽に参加でき、ゲームや食事を通じて交流を深める「新年会」の開催の3つを軸とした。今年度はこれらの活動に加えて、「日本語スピーチコンテストのサポート」を行なった。

### プロジェクトの成果報告

(1)日本語教室の開催

日本語教室は、外国人が日本語を学習できる場として、月に2回、第2・第4水曜日（18:30～20:00）に大洗町役場の会議室で開催している。学習者のニーズをもとに、個々の目標に沿った学習サポートを、地域の日本人ボランティアと共に実施している。日本語教室では、日本人1人につき学習者1人～複数人の学習をサポートしている。担当者が変わる際、次回担当者へ学習内容の引き継ぎをする必要がある。

昨年度は、学習者1人1冊ノートを作り、日本語教室終了時に学習内容などを記録していた。しかし、1～2回しか来ない学習者がいたり、ノートを探すのに時間がかかったりするという課題が生じた。そこで、今年度からはルーズリーフに記録し、まとめてファイルに綴じるようにした。この取り組みからノートを無駄にすることもなくなり、探すことも容易になった。今年度は、インドネシアからの留学生に協力を求め、大洗町のごみ出しのルールをインドネシア語で翻訳してもらった。作成したインドネシア語で翻訳した資料、資料の英語版、ごみ出しのルールについての資料は以下のとおりである。（資料は別途添付）

1. 【ごみ出しのルール】インドネシア語版
2. 【ごみの分別ルール】インドネシア番号付き英語版
3. 【ごみの分別ルール】ガイド English Version

4. 【ごみの分別ルール】ガイド  
継続して参加している学習者やボランティアから関係がひろがり、新たな外国人も参加するようになった。



日本語教室の様子

## (2)取り出し授業への参加

大洗小学校および第一中学校では、外国にルーツをもつ児童生徒を対象に、日本語を補いながら教科学習をする「取り出し授業」が実施されている。私たちは、週2日、取り出し授業に「日本語サポーター」として参加し、外国にルーツをもつ子どもの教科学習や日本語学習のサポートを行っている。小学校では1・2時間目(8:40～10:15)に参加している。今年度から、第一中学校での「取り出し授業」にも週2日参加している。中学校では、1～4時間目(8:40～12:30)に参加している。私たちが参加することで、児童生徒一人ひとりがより密度の高い学習をすることができた。また、私たちの参加を楽しみにしている児童生徒もおり、私たちの活動が、学習に対するモチベーションを高めるきっかけとなったことも大きな成果といえる。継続して参加することで、少しずつ児童生徒や小学校・中学校の先生方との関係を築くことができた。



取り出し授業の様子

### (3)新年会

気軽に参加でき、外国人同士や外国人と日本人の関係構築のきっかけとなる新年会を1月に開催した。これを機に、活動に初めて参加して下さる方もいた。子どもから大人まで参加できるジェスチャーゲームやビンゴ大会を行った。また、外国人や日本人のボランティアが持ってきてくださった料理やお菓子を一緒に食べた。外国の料理を食べることで、その国の文化を直接体験できるという貴重な時間を過ごすことができた。新年会では普段の日本語教室などでは見られない参加者の新たな一面を知ることができた。



1月開催 新年会

### (4)日本語スピーチコンテストのサポート

2月3日に茨城大学ライブラリーホールで開催された外国につながる児童生徒によ

るスピーチコンテストの手伝いをした。このコンテストは茨城大学の多文化社会とコミュニケーションゼミナールと大洗町・日立市・ひたちなか市との連携により行われたものである。会場設営、コンテストの出場者やその家族・引率の方の案内や、受付などを行った。会場には参加者や関係者だけではなく、多くの日本人も来てくださった。様々な国の出身の児童・生徒のスピーチを聞くことで私たちも多文化共生について考えることができた。



スピーチコンテストでの様子

### (5)その他の活動

その他の活動として、大洗町の行事である八朔祭では食べ物を販売する手伝いをし、盆踊りの夕べでは飲み物の販売およびフェイスペイントの手伝いを行った。またスポーツフェスティバルでは外国人や日本人のボランティアと一緒に競技に参加しながら交流を深めた。その他に、日本語教室で活動するボランティアと日本語教室の運営について話し合いも行った。日本語教室では、日本語能力検定を受験する学習者が増えてきたため、私たちが対応できるようにすることを目的とし日本語について学習している。今後はボランティアの日本人と共に学習していくことが課題といえる。日本語教室に

参加しているインドネシア出身の方に、彼らが通う教会のパーティーに招待されることもあった。外国人のコミュニティに迎え入れてもらったことで、彼らの文化を知り、より深く交流をすることができた。



八朔祭りでの様子



盆踊りの夕べでのフェイスペイントの様子

#### (6)全体の成果と今後の課題

全体の成果として、第一に、これまでの活動にボランティアが継続して、積極的に参加してくださっていることが挙げられる。私たちの活動は、将来的には大洗町住民が主体となって継続されることを目標としている。そのためにも、現段階で、私たちの活動に地域のボランティアが積極的に参加してくださることは、非常に大きな意味がある。今年度も昨年度と同様、日本語教室の運営についてディスカッションを行った。こ

のディスカッションはボランティアと私たち、また、ボランティア同士の関係を深めることにつながったと考えられる。そして、ボランティアからの率直な意見を聞くことで運営の改善に生かすことができた。第二に、日本語スピーチコンテストの開催が多くの人に、国際化について知ってもらい、多文化共生について考えてもらうきっかけになった。また、私たち自身が改めて外国人や日本人、多文化共生について考える機会になった。

今後の課題として、日本語教室においては、日本語能力検定を受験する学習者が増えてきたため、私たちやボランティアが対応できるようにすることが挙げられる。私たちが自主的に行ってきた日本語学習をボランティアと共に学んで日本語講座を開催できれば良いと考える。全体としては、日本語教室参加者との話し合いなどでみえてきたボランティア・学習者双方のニーズに応えていくことが挙げられる。今後も、大洗町の人々との関係を大切にしながら、継続して活動に励んでいきたい。